



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和 6年 9月 20日
つばさだより 第7号

「つばさ教室」ってどんなところ？

夏休み明けの最初の週に支援教室理解教育の一環として1、2年生に「つばさ教室」について15分ほどのミニ授業を行いました。校内にある「つばさ教室」。教室からの掲示物等でそのつど情報を発信していますが、子供たちにしてみるとまだまだどんなところかイメージがつかないこともあります。今回は低学年の先生と相談して「相談」というキーワードを使って話をしていきました。まずは先生からの自己紹介です。低学年は昇降口から教室に向かう経路でつばさ教室の前を通りますが、そこまで多く直接話をしたり顔と名前を一致したりするタイミングも少ないので先生の名前と好きなもののアイコンを使って名前を覚えてもらいました。

次に本論としてどんなことをする教室なのかを伝えました。最初に、人には「得意」と「苦手」があることから話を始めました。運動や遊び、勉強、友達との関係。インタビュー形式で質問をしていきます。それぞれのお題に「はい!」「う〜ん」「好き!」「苦手!」と手が挙がります。合わせて自分の「得意」と「苦手」に素直に反応できていることを最大限評価していきます。次に、こうした「得意」や「苦手」があることは当たり前のもので、悪いことではないことを付け加えて伝えました。(学年が上がるにつれて「苦手」なものについては、やはりネガティブな意識が先行するようになってく傾向もあります。低学年くらいからの意識として自分の「苦手」は悪いことではないという認識は大事に育てていきたいものです。)

最後に、ただ当たり前にある「得意」や「苦手」の中で、自分でも「困る」こと「どうして?」と感ずること、「どうしたい?」と感ずることがあれば「つばさ教室」で「相談」してどんな方法があるかを先生と一緒に考える勉強をする場所であることを伝えました。実際には小学生段階で自分の中の「?」に具体的に気が付くことは難しいことがたくさんあります。ただ、その中で「相談」という方法があり、「相談」しながら自分や社会について学べることもあることを高学年、中学生、高校生という階段の中で意識していけるようになればいいかなと思います。同時に、今回、低学年に「つばさ教室」の話をする中で、さらに支援教室への理解や自分の中の「得意」や「苦手」への向き合い方のきっかけができていけばとも思います。紹介授業の中で自分の「得意」や「苦手」に「はい!」と手を挙げられる1、2年生の素直な視線が印象に残った今回の授業でした。



お知らせ

*個別指導計画(第一期から第三期まで年3回つばさ教室での指導内容と評価計画が出ます。)の第二期分を配布いたします。内容を確認していただき、不明な点、指導内容の付け足しなどがある場合はその旨をつばさ教室までご連絡ください。(連絡ファイル、電話等に対応いたします。)

*個別指導計画の内容について特に問題がない場合はそのまま各ご家庭にて保管してください。

*尚、9月24日(火)~9月27日(金)は前期後期入れ替え期間のため支援教室での指導はありません。